

- 時 : 2021年1月28日(木)
- 場 : 津市白山町大三公民館 多目的ホール
- 参加 : 井谷、伊藤、海老原、笠松、中川、長野、中西、野崎、深田、森下、森松、吉川、渡瀬
*意見の記録: 森松 まとめ資料: 長野

① ちょっぴり身体教養体操

② 活動報告(12/18~1/27)

◆【12月27日(日):市民創作劇場制作関係者の振り返りをしました。】

参加者)

長田 驍氏、川合俊平氏、長田 郷氏、井谷、伊藤、笠松、長野

内容まとめ)

公的な芸術活動としてのポイントは、人から人への手渡し作業の中で生まれる、お互いの価値観や美意識を問うような、そこに居なければ成し得ない意思交換(創作活動独特のコミュニケーション)の現場であり、これからの時代にこそ人間力の育成再生の場として大切な活動になる。しかし、それは同時に必要性が軽視(面倒な作業、時間のかかる作業)される可能性が高いことを認識し、どのように継続していくか?どのように協力していくか?をいつも頭に置いておくことが大切となる。

↓

森劇としては、上記の内容を多くの人とどのように共有していけるかが課題、多分、、、永遠の課題。
地道に周知し活動し振り返る実践を続けていくことしかない。

◆【12月28日(月)・1月5日(火):子ども里山そうそう学校に関する中高生とのミーティング】 (12/28:11月に行った市長との面談「若い世代が考える公共劇場の活かし方」振り返り会)

- ・面談は、まず子ども達が、時間をかけて自分の考えを探る機会となった→今、機会がなくなってきているようだった。

↓

- ・振り返り会は、振り返ることの重要性・面白味(自分の意見を再度確認する。他人の意見を聞いて考えが発展するといったことが起こっていた。)を共有したことがとても良かったと思う。

*用意した4時間はアツという間だった。考えること伝えることに関して欲求を持っていることが嬉しく気持ちよい時間だった。
〈担当:長野〉

(1/5:12月芸術祭での活動の振り返り会)

- ・自分たちがやってみたくと思ったことを実現させ満足していることを聞き、ホッとした。
- ・自分の仕事が、「いろんな意見をまとめる」ことなのに子どもたちの話はまとめられなかった。それでよいのだと思った。
〈担当:森松〉

◆【1月7日(木)「リーダー会」】…地元山の神神事にて芸術祭の願いの短冊お焚き上げしていただいた。

参加者)伊藤、笠松、長野

- ・話し合いも大切ながら、実際の活動を共有し、一緒に感じ・心動かされ・味わうといったことの気持ちよさを痛感した。←異種混合メンバーで活動していくポイント!忘れずに活かしていく。

- ・お焚き上げの際、担当年配者の仕事の美しさや参拝者への配慮は素晴らしいものだった。

↓

- ・そんな中、私たちの振る舞い（たくさんの短冊の持ち込み、お餅をたくさんいただき、焼き芋を焼かせてもらう・・・）はどうだったのか？？？を、このスタディーで聞いてみる機会を得た。
「楽しい時間になった。」といていただきホッとすると同時に、コミュニケーションが取れるというのは時間のかかることだと改めて認識することとなった。

◆【1月21日（木）ばんざいチーム（芸術祭実行委員会）まとめ会】

- ・考えて活動を継続するための覚書をつくることになった。（次年度には活用、言葉に縛られないように注意）
- ・各部門が、独立して企画・運営してもよい……時期が来た……次年度に続く。

③ 『地域の新聞社に記者として転職したメンバーの中西ゆかりさんの体験談を交えて意見交換』

地域で巻き起こっている活動現場に飛び込み、短時間で聞き取り文字にして配信するというコミュニケーション力が必要な仕事柄、社会の変化（今回は特に自己表現について）や、自分自身について気づくことがあるというゆかりさん。それは森劇でも注視していることなので、ゆかりさんの話を聞きながらみんなでとりとめもなく意見交換（話してみる、聞いてみるということ）を試みました。その時に出た意見を羅列しておきます。

その一

自分の長所はコミュニケーション力が高いところだと思うんです。
人の輪に入っていくことも平気です。
だから、転職先にコミュニケーション力が活きるだろうと新聞社を選びました。
一年奮闘しながら、、、私って人が好きすぎるんだと思うんです。
軽くはつき合えないというのか・・・
相手のこともわかりたいし、自分のこともわかってほしい。

(*^*) と、
ゆかりさん。

(° o °) 長野

ひょ～～～っ！！それって特に今の時代希少人やよね。
じゃまず、その性格でよかったーという体験談と、
あ～しんどい(-“-)という体験談を聞かせてください。

♡ 諦めずに話しかけるうちに一方通行だった人間関係が変化していった。

- 取材先の人のが気持ちが熱ければ、私情をはさまず記事にすることはとてもしんどい。
- ・相手との関係性は、自分の気持ちだけではどうにもならずモヤモヤすることがある。
- ・人間関係は、たたかいになると何も良いことが無い。
- ・「こなす」ばかりでいろんなことを「諦めている」と思うことがある。
- ・多人数での活動で人間関係を保つのは、目的を明確にしておくことが大切。
- ・意見はまとまらなくても出し合える場が大切。
- ・森劇は、土台にひそめてある大きな価値を理解し合える間がらでありたい。
- ・コロナのお陰で、困難だった若い世代との意思の疎通が、SNSの使い方を教えてもらったりする中から距離が縮まるということがあった。
- ・親のあり方は子どもに直結している。

その二

転職して多くの人と接するようになって、コミュニケーションするってすごくエネルギーのいることなんだなって感じます。

便利な時代が楽な方を（直接対話しない）選ばせているような、不安になることは避けてしまう感じを受けます。

それは、自分の殻に籠っていきって印象を受けたりします。

(° - °) ゆかりさん

(´・ω・`)
長野

楽な方を選んでいく流れがどんどん強くなってきていると感じる。
じっくり話すこと 複雑で微妙な内容を他人との共有しなくなることは
分断されていく社会と言われている“元”の原因になっているのじゃないか？と思う。
ゆかりさんはこの一年の間にフッと殻に閉じこもりそうになったことある？

口身近な人に意見をするのはとてもエネルギーのいることで、すごく緊張している自分を感じた、手紙を書いた。

↑

- 手紙をもらった人は幸運、時間はかかるだろうが伝わる可能性がある（諦めれば可能性はゼロ）。大切に思うけれどなかなかできないこと。
- 人をよく観察して心が配れるようになってほしいと願う。

- どうでもよい話を普段からすることが大切だと思う。
- 趣味の集まりの中にも、趣味を高める・たのしむといったことの他に、大切なことを共有していこうというムードがある。
- 体温を感じないメールで済ませる、楽なコミュニケーションへの流れ。（嫌われない、安心）
- 未経験なことは誰でも怖い、自信がない。・・・実体験を得る機会がどんどん減ってきている。
- 言いたいことのある人が直接声をあげることがやはり一番正確に伝わると思う。
- 次の世代へ伝えておくべきことがあったように振り返る。（現役時代を回想）
- 今、電話をすることを「相手の時間を奪う迷惑なこと」という考えが出てきていて驚く。

④ アンケート協力をお願い

次年度の森劇スタディーのデザインのヒントをいただくためのアンケート

1) 現在の森劇スタディーの魅力

文化政策の話は貴重 / 本音で意見が出し合える場 / 異種混合の人の意見が聞ける
落ち着く / 考えることのできる場所 / 知る場になっている / いつでも誰でも参加できる / 息が詰まりそうな現代、目標を持った活動の話が聞けるのは気持ちがいい・・・他

2) 改善点

今は無理ですが、屋外で行うのもリラックスできていいと思う。 / もう少し時間が取れるといい。 / 今日の内容がとても良かったと思うので、時々 誰かの悩みや聞きたいことなどを中心に意見交換するのは良いと思った。

↓

「スタディー」という名の「勉強する場」という内容には何か少し足りないかな？との思いからアンケートを実施させていただきました。しかし、親しい友人との楽しいランチ会とか仕事仲間との雑談会とは差別化できる、ほんの少し社会の課題に関わる異種混合ながら安心して気軽に参加できる勉強会・情報交換会・意見交換会というのは大切な場となっていると判断できました。この場の内容を活動に繋げていくこともコーディネーターの役割だろうと思いました。ありがとうございました。

